

赤米ニュース

第275号

(2020年2月29日)



東京赤米研究会

〒186-0005 東京都国立市西3-7-29 アゼリア国立2-101 長沢方 (Tel042-577-6855)

おしらせ	2198
おたより	2198
史料から読む赤米の歴史 (Ⅲ)	長沢利明 2199
『赤米ニュース』第141号～第160号総目次	2201
表紙解説：東京の祭り②—王子の凧市 (北区) —	2204

おしらせ

●国分寺赤米会の忘年会

東京都国分寺市の「国分寺赤米会」では昨年12月15日(日)、西国分寺の居酒屋「ちょこり」にて忘年会を開催し、昨年の活動の反省と新年度の計画などについての話し合いが持たれました。武蔵国分寺跡地内の赤米畑は、本年も引き続き利用できることになっており、地元農家の小坂家の奉仕によって昨年末、稲刈り後の耕地のトラクター耕耘が一度、すでに実施されております。今年もここで大規模な赤米作りがおこなわれる予定です。

●龍神さんの赤米報告第4弾

国分寺赤米会の代表で、本会会員でもある龍神瑞穂さんが、昨年の赤米作りについて、『環境ひろば国分寺』144号(2019年10月

20日発行)にまた、報告を書いて下さいました。連載第4弾です。以下にそれを転載させて頂きました。

おたより

●来年もよろしく(池上 修)

来年も『赤米ニュース』をよろしくお願ひ致します。来年はもっと収穫量を増やし、稲藁を用いて立派なシメ飾りを作ってみようと思っております(12/27:東京都国分寺市)。

●今年もよろしく(坂 真矢子)

今年も赤米通信を送って下さい。本年も宜

環境ひろば国分寺

発行 国分寺市環境ひろば
国分寺市

第144号 令和元年10月20日

赤米について《その4》

赤米(あかごめ):武蔵国分寺種赤米については、シリーズで紹介してきましたが、今年も市内各所で栽培が行われ、それぞれに実りの秋を迎えています。環境ひろば140号でご紹介した「わんぱく学校」でも9月29日(日)に稲刈りが行われました。当日は、5月26日(種まき)からの生育の過程を映像でふりかえった後、畑に移動、「国分寺赤米会」のメンバーのサポートのもと、作業を行いました。順序は逆になりますが、1週間前にスタッフがあらかじめ刈り取り、はさかけ(稲架)をしておいた稲の千歯抜き(せんばこき;昔の脱穀用農具)による脱穀を体験しました。次いで鎌による稲刈りを行い、



はさかけを行いました。児童たちも、夏場の除草の大変さや先の15号台風での被害、そして、脱穀の後も、唐箕(とうみ)、粃摺り、精米などの過程があることを学び、農業の大変さ、一粒のご飯のありがたさを感じ取ったのではないのでしょうか。

(環境ひろば会員 龍神 瑞穂)



史料から読む赤米の歴史(Ⅲ)

長沢 利明

1 古代の赤米史料・つづき

次に、日本の女流随筆文学の代表的な作品である、清少納言の『枕草子』を読んでみましょう。「春はあけぼの」で始まる、有名な冒



写真4 清少納言(上村松園画)

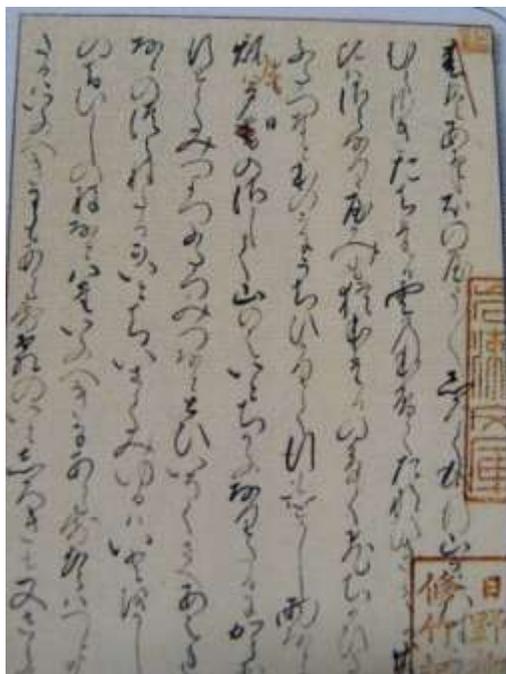


写真5 『枕草子』の冒頭部分

頭の書き出し部分は、誰もがそらんじているほどで、多くの国民に親しまれてきました(写真4~5)。『枕草子』が書かれたのは平安時代の996年(長徳2年)から1000年(長保2年)頃と推定されていますが、ライバルの紫式部が『源氏物語』を書いたのと、ちょうど同じ頃の時代です。約300段から成っておりますが、その第227段に赤米稲について述べたのではないかと思われるくだりがある、次の通りです。

史料5 清少納言『枕草子』(996~1000年)

八月つごもり、太秦にまうづとて見れば、穂にいでたる田を、人いとおほく見さはぐは、稲かるなりけり。「早苗とりしかいつの間に」まことに、さいつころ賀茂へまうづとてみしが、あはれにもなりにけるかな。これは男どもの、いと赤き稲の、本ぞ青きを持たりてかる。なににかあらむして本をきるさまぞ、やすげに、せまほしげにみゆる也。いかでさすらむ、穂をうちしきて、並みおるもおかし。庵のさまなど。

8月の月末頃、著者の清少納言は洛西の太秦(うずまさ)に詣でるための小旅行に出かけるのですが、太秦詣でとは京都の町の中心から西の方にあたる郊外(今の京都府京都市右京区太秦峰岡町)にある広隆寺を参詣するというので、同寺には祀られた本尊弥勒菩薩は靈驗あらたかな仏として知られていました。清少納言はおそらく牛車に乗って出かけたものと思われますが、ちょうど水田の稲の収穫期で、車中からはにぎやかに稲刈りをおこなう農民たちの姿が見えました。この間、田植えをしたばかりだと思っていたのに、もう稲刈りの時期になったのだなあ、という意味で「早苗とりしかいつの間に」と、彼女は

つぶやいています。これは『古今和歌集』にある「昨日こそ早苗とりしかいつの間に稲葉そよぎて秋風のふく(読人知らず)」という歌を踏まえています。そういえば以前、賀茂詣りの途上で、田植えをしている農民の姿を見たことがあったっけなと思い出し、感慨深いものがあったのでしょうか。田植えを見た時のことは、前段の第226段で触れられています。

注目すべきは農夫たちの刈り取っている稲のことで、根元の方は青いが、穂先の方とはとても赤い稲だったと、彼女は記しています。農夫らはその稲の根元の方をつかみ、どういう刃物を用いるのかはよくわからないが、いとも簡単そうに、自分もやってみたいなと思えるようなやり方で、根元を刈り取っていたとあります。最後は「どうしてそんなことをしているのか、稲穂を敷いて、男たちが並ん



写真6 「いと赤き稲」(千葉県長南町)



写真7 インディカ種赤米稲(長野トウコン)

んですわっているのも面白いものです。仮小屋の様子なども、また」と結んでいます[酒井(訳), 2016:p.246]。はざ架けではなく、地干し方式での稲の乾燥がなされていたのかも知れません。

多くの文学解説書には、ここにいう「いと赤き稲」とは、「熟し切った稲の穂のことをそう言ったのだろう」との解釈を載せているのですが[渡辺(校注), 1991:p.256]、かなり無理があることは明らかでしょう。読んで字のごとく、赤い色をした稲穂がそこに稔っていたと、すなおに受け取るべきであって、農学者や民俗学者たちは、そうに主張してきました(写真6)。多摩地域を代表する郷土史家であった宮崎糺氏も「赤米が実った田は、芒(のぎ)が真っ赤に色づいて燃えるように見えるものである。この記事から、平安時代中期には、都の近郊でも赤米が広く作られていたようだ」としておられます[宮崎, 1991:p.223]。

2 中世の赤米史料

中世の鎌倉時代から室町時代にかけては、中国からインディカ種赤米稲が日本に渡来し、その全盛時代が始まります(写真7)。荒れた土地でもよく育ち、乾燥や病虫害にも強く、多くの収穫量の得られたスーパー赤米稲として、おおいにそれはもてはやされ、食糧増産にも多大な貢献をしてきました。この中世のインディカ種赤米のことを俗に「大唐米」と呼んだのは、それが中国からもたらされた稲種であることにちなんでいます。「大唐米」とは、偉大なる中国からやってきた米という意味をあらわしているのですが、この呼び名のことを皮肉った俳諧作品が、『犬筑波集』に載っています。それを次に見てみましょう。

史料6 山崎宗鑑『犬筑波集』(1530年)

日本のもののくちのひろさよ、たいとうをかかしにしてや、飲む覧。

『犬筑波集 (いぬつくばしゅう)』とは、室町時代に編さんされた俳諧句集で、1530年(享禄3年)に山崎宗鑑という人の撰によって成立したものです。正しくは『新撰犬筑波集』というのですが、『犬筑波集』という略称で呼ばれることが多いのです。この時代の著名な連歌集に『新撰兎玖波集 (しんせんつくばしゅう)』というものがあり、それに対する卑称として「犬」の字を冠し、『犬筑波集』としたらしいのです。多くの俳諧句がそこに収録されているのですが、付句(つけく)による卑俗でユーモラスなものが多く含まれているのが特徴です。(つづく)

『赤米ニュース』第141号 ～第160号総目次

第141号 (2008年12月1日)
おしらせ(今年の収穫状況をお知らせ下さい、再度、会員登録の更新について) -----1118
おたより (佐藤秀美: 赤米料理、教えて下さい、森南聖后: 今年の伊勢神宮への献穀、長沢利明: 府中市の黒米酒、小澤和総: 来年はやってみます) -----1118
赤米雑話 (107) -----長沢利明 1119
表紙解説-----1124
第142号 (2009年1月1日)
おしらせ (本年もよろしくお願ひ致します、当会の赤米を伊勢神宮へ献上、第17回収穫祭・試食会のおしらせ) -----1126
おたより (多久島實: 今年もよろしく、川添え裕稀: 初めてうまくなりました、垣田千

恵子: 今年はいろいろな色のお米を、宮本リツ子: 昨年は全滅状態、南森聖后: 田んぼにクスノキを、藤本博登: 私もやってみます、唐木田清雄: 黒米もやって欲しい、長沢利明: 今年はどうな年?) -----1127
赤米雑話 108-----長沢利明 1130
表紙解説-----1132
第143号 (2009年2月1日)
おしらせ (第17回収穫祭・試食会の報告) -----1134
おたより (唐木田清雄: 赤米の参考文献を送ります、鈴木珠予: お久しぶりです、唐木田清雄: 会報を紹介させて下さい、横山明子: 昨年は不作、鈴木誠: 収穫米を送ります、宮本悠子: 那須の高冷地では失敗、熊谷仁美: 北海道では成功、唐木田清雄: 食味検定のやり方、坂真矢子: おめでとうございませう、川上浩司: 今年頑張ります、山田義高: 赤米7種を収穫、佐山真由美: 茨城の田んぼで、亀倉加久子: 赤米のパン、山中幸弘: ブータン・フィリピン種に感動、長沢利明: 赤米の七草粥) -----1134
新春座談会: おいしい赤米は種子島種とフィリピン種 (上) -----垣田千恵子・川添裕稀・瀬川洋子・長沢利明 1139
表紙解説-----1140
第144号 (2009年3月1日)
おしらせ (今年度の種粃の配布について) -----1142
おたより (唐木田清雄: 新年のご挨拶、多久島實: 寒中お見舞い申し上げます、長沢利明: テレビにはこりごり) -----1143
新春座談会: おいしい赤米は種子島種とフィリピン種 (下) -----垣田千恵子・川添裕稀・瀬川洋子・長沢利明 1144
東京赤米研究会結成 10周年記念報告: 赤米を食べる (I) -----長沢利明 1148

表紙解説-----	1148
第 145 号 (2009 年 4 月 1 日)	
4 月の赤米作り-----	1150
おしらせ (再度、種粳の配布について、国士館大学の学生の皆さんへ、杉並郷土史会で赤米の講演、本会結成 10 周年)-----	1152
おたより (唐木田清雄：種子を送付します、森南聖后：今年も赤米シンポ、長沢利明：ドンド焼きの火の中へ)-----	1153
東京赤米研究会結成 10 周年記念報告：赤米を食べる (II)-----	長沢利明 1155
表紙解説-----	1156
第 146 号 (2009 年 5 月 1 日)	
5 月の赤米作り-----	1158
おしらせ (種粳の追加配布について)-----	1160
おたより (唐木田清雄：古い種子でも発芽、平井静香、切手を同封します、長沢利明：象の餌にされた赤米)-----	1161
赤米雑話 96 (72 殿様の記した赤米稲)-----	長沢利明 1003
東京赤米研究会結成 10 周年記念報告：赤米を食べる (III)-----	長沢利明 1162
表紙解説-----	1164
第 147 号 (2009 年 6 月 1 日)	
6 月の赤米作り-----	1166
おしらせ (追加配布もう 1 種、第 18 回試食会のおしらせ、赤米シンポジウムの開催)-----	1167
おたより (唐木田清雄：赤米シンポ終了、平井静香：総社と対馬を、長沢利明：栃木県小山市で見た赤米・黒米、垣田千恵子：黒米・オレンジ米やります、森南聖后：料理酒お送りします、唐木田清雄：稀珍黒米送付します、唐木田清雄：武蔵国分寺種の開花写真、浜口景子：今年は 5 年生 3 クラスで、浜口景子：6 年生もやるかも？、飯島知子：今頃すみません)-----	1168

東京赤米研究会結成 10 周年記念報告：赤米を食べる (IV)-----	長沢利明 1170
表紙解説-----	1172
第 148 号 (2009 年 7 月 1 日)	
7 月の赤米作り-----	1174
おしらせ (第 18 回試食会延期のおしらせ)-----	1175
おたより (唐木田清雄：信州の糯種トウコン、長沢利明：『年中行事大辞典』刊行、滝沢勝三郎：『赤米ニュース』届きました、菅野郁雄：赤米地名を調べました、唐木田清雄：『赤米ニュース』146 号感想、五十嵐トシ子：これから田植え、垣田千恵子：芽が出てきました、西トミ江：九州で栽培予定、瀬川洋子：山菜をどうぞ、芦田行雄：中国の瑞雲黒米、鈴木誠：今年も 8 品種を栽培)-----	1175
東京赤米研究会結成 10 周年記念報告：赤米を食べる (V)-----	長沢利明 1179
表紙解説-----	1180
第 149 号 (2009 年 8 月 1 日)	
8 月の赤米作り-----	1182
おたより (矢森恒子：1～2cmの芽が出ました、星菅野郁雄：東北地方の赤米地名、長沢利明：新発見の赤米地名に感激、滝沢勝三郎：赤米作りスタートできず、垣田千恵子：ボウフラ対策を教えてください、宮本リツ子：赤米は発芽せず)-----	1183
東京赤米研究会結成 10 周年記念報告：赤米を食べる (VI)-----	長沢利明 1186
表紙解説-----	1188
第 150 号 (2009 年 9 月 1 日)	
9 月の赤米作り-----	1190
おたより (菅野郁雄：赤米地名調査中、長沢利明：稀珍黒米はおいしい、菅野郁雄：赤米地名その後、青柳綾子：赤米は 40 cm に成長)-----	1192

東北地方の赤米地名調査報告 (I)
-----菅野郁雄 1194
赤米雑話 109 (76 湖北座会の 10 年)
-----長沢利明 1195
表紙解説-----1196
第 151 号 (2009 年 10 月 1 日)
10 月の赤米作り-----1198
おたより (川添裕稀: フィリピン赤米順調,
長沢利明: シネはイネの古語, 菅野郁雄:
ボウフラ対策教えます, 浜口景子: 二小の
赤米は順調, 西トミ江: 赤米は広島で, 垣
田千恵子: 武蔵国分寺種が元気, 五十嵐ト
シ子: 今迄の経過報告, 垣田千恵子: 出穂
しました) -----1200
東北地方の赤米地名調査報告 (II)
-----菅野郁雄 1202
赤米雑話 110 -----長沢利明 1203
表紙解説-----1204
第 152 号 (2009 年 11 月 1 日)
おしらせ (会員登録の更新のおしらせ, 『杉並
郷土史会史報告』に赤米記事) -----1206
おたより (川添裕稀: フィリピン赤米はまだ,
森本幸子: 赤米稲は 90 cm に成長, 長沢利
明: 今年はやや不作, 菅野郁雄: 茨城県の
赤米地名調査完了, 芦田行雄: 「稀珍黒米」
です, 菅野郁雄: 赤米は順調に成長, 垣田
千恵子: フィリピン赤米開花) -----1207
赤米雑話 111 (77 富山県の赤米)
-----長沢利明 1211
表紙解説-----1212
第 153 号 (2009 年 12 月 1 日)
おしらせ (再度、会員登録の更新について)
-----1214
おたより (菅野郁雄: 赤米地名について, 芦
田行雄: 切手を送付します, 西トミ江: 九
州で赤米栽培, 菅野郁雄: 赤米地名調査継
続中, 長沢利明: 赤米チャーハンの作り方,

菅野郁雄: 茨城県の赤米地名その後, 鈴木
将太: 来年はやります) -----1214
茨城県および東北地方の赤米地名
-----菅野郁雄 1216
赤米雑話 112-----長沢利明 1219
表紙解説-----1220
第 154 号 (2010 年 1 月 1 日)
おしらせ (2010 年もよろしくお願い致します,
昨年も伊勢神宮へ赤米を献上, 第 18 回赤
米収穫祭・試食会のおしらせ) -----1222
おたより (菅野郁雄: 赤米地名調査継続中,
唐木田清雄: 「トウコン」と「粳」, 井出信
子: 中身のない稲に, 森本幸子: 待望の稲
刈り, 唐木田清雄: 赤米種子について, 森
南聖后: 献穀は神宮の下宮へ, 多久島實:
来年もよろしく) -----1223
福島県の赤米地名補足-----菅野郁雄 1224
表紙解説-----1228
第 155 号 (2010 年 2 月 1 日)
おしらせ (第 18 回収穫祭・試食会の延期,
賀状ありがとうございました)-----1230
おたより (菅野郁雄: 栃木県の赤米地名調査
終了, 唐木田清雄: 再び「トウコン」につ
いて, 菅野郁雄: 群馬県の赤米地名調査終
了, 青柳綾子: 心から感謝, 菅野郁雄: 埼
玉県・東京都の赤米地名調査終了, 長沢利
明: 「神丹穂」は「香川大, 菅野郁雄: 「と
うぼし」小字追加, 森南聖后: 猪に食われ
ませんでした, 菅野郁雄: 千葉県の赤米地
名調査終了, 鈴木誠: 猪にやられました,
菅野郁雄: 神奈川県赤米地名調査終了,
宮本リツ子: ありがとうございます, 菅
野郁雄: 山梨県の赤米地名調査終了, 横山
明子: 来年もよろしく, 瀬川洋子: 病気を
しています, 小澤和総: 猫に食べられまし
た, 宮本悠子: 高冷地はむずかしい) ---1230
茨城県の赤米地名補足-----菅野郁雄 1234

赤米雑話 114	長沢利明	1236
表紙解説		1236
第 156 号 (2010 年 3 月 1 日)		
おしらせ (今年度も種粳を配布します)		1238
おたより (坂真矢子:おめでとうございます, 多久島實:今後共よろしく, 森本幸子:有難うございました, 佐山真由美:ごぶさたです, 芦田行雄:おめでとうございます, 安本義正:お元気ですか, 新村安康:杉並郷土史会をよろしく, 山田義高:7種類の赤米を栽培, 浜口景子:頌春, 長沢利明:「富山黒 75 号」について, 宮本リツ子:お世話になりました, 菅野郁雄:失敗です)		1239
栃木県の赤米地名	菅野郁雄	1242
赤米雑話 115	長沢利明	1243
表紙解説		1244
第 157 号 (2010 年 4 月 1 日)		
4 月の赤米作り		1245
おしらせ (再度、種粳の配布について、本誌 153 号の訂正)		1248
おたより (菅野郁雄:粥にして食べました, 長沢利明:パソコンを買い換えました, 五十嵐トシ子:今年は御休み, 菅野郁雄:静岡県赤米地名調査終了, 長沢利明:切手の寄付に感謝)		1249
群馬県の赤米地名	菅野郁雄	1250
赤米雑話 116 (75 新潟県の赤米)		1251
表紙解説		1252
第 158 号 (2010 年 5 月 1 日)		
5 月の赤米作り		1254
おたより (菅野郁雄:次は岐阜県でも, 西トミ江:九州で豊作)		1256
千葉県の赤米地名	菅野郁雄	1257
赤米雑話 117	長沢利明	1260

表紙解説		1260
第 159 号 (2010 年 6 月 1 日)		
6 月の赤米作り		1261
おたより (菅野郁雄:長野県の赤米地名, 唐木田清雄:マダガスカル赤米, 西トミ江:種子島種をよろしく, 唐木田清雄:今年の赤米シンポは欠席, 西トミ江:今年も九州で栽培, 浜口景子:5年生が赤米作り, 菅野郁雄:福島県の春日神社でも, 長沢利明:大桃美代子さんと紫米)		1263
山梨県の赤米地名	菅野郁雄	1267
赤米雑話 118	長沢利明	1267
表紙解説		1268
第 160 号 (2010 年 7 月 1 日)		
7 月の赤米作り		1270
おたより (東京都小学校社会科研究会:赤米の種もみ、ありがとうございました, 浜口景子:5年部会でも赤米作り, 鈴木誠:稀珍黒米、楽しみです, 長沢利明:順調に発芽)		1271
岡山県総社市国司神社の赤米栽培記		1274
赤米雑話 119	長沢利明	1275
表紙解説		1276

【表紙解説】東京の祭り②—王子の凧市— (北区)

北区の王子稲荷神社は東京を代表する稲荷の古社で、ここに祀られた稲荷神の使いである狐は、古典落語の「王子の狐」にも登場する。稲荷社なので、その祭日は2月初午日となっており、境内に凧市が立つ。凧のみを売る市は全国的に見てもここだけで、珍しい。大小さまざまな凧が売られるが、その中心は奴凧で、空に揚げることもできるが、実はそれは火防せ祈願の縁起物なのであり、神棚に祀っておくと火難をまぬがれるという。風を切って空高く舞い上がる奴凧が、火事の子を吹き飛ばしてくれると信じられていた。火災都市江戸ならではの民間信仰といえる。